

## ライスマのローンはこうして役立ってます⑤

ライスマでは先月4月から現地での預金、主に積立預金を始めました。私が言うのもなんですが、カンボジアの人たちは簡単にお金を借りすぎます。最近ではiphone5を買い替えたいからお金を貸して・・・というようなリクエストが増えており、「1、2ヶ月我慢すればアンタの給料なら買えるでしょ!？」というのが実に多いです。借りてもらえれば我々の収入はアップするわけですが、我々のメインの目的はあくまで人々とカンボジアの自立です。これはここまで普及・浸透してしまったマイクロファイナンスの「負の一面」とも言えるのではないかという気がしてきて、ローンを返し終わった人に、もう二度と借りなくてもいいように積み立て預金を始めるよう勧めております。

そこからさらに突き詰め、マイクロファイナンスなんかがこれほど必要とされる今のカンボジアはやはりおかしい、貧困から抜け出すために今は必要でも、将来的にはマイクロファイナンスなんか必要ないカンボジアを実現しなければいけない、そのためにライスマは「マイクロファイナンスの根絶を目指すマイクロファイナンス」を目指して活動いたします。



①ケーンさんと商品のバッグ

プロム・ケーンさんは笑顔の素敵なおばさん。娘さんと2人で毎日ミシンを使って内職しています。昔からこうして家計をささえて、子供を育ててこられました。古くなり動きが悪くなったミシンを買い換えるために450ドルを借りたいということでした。



②スタッフのMr. ボレイが返済予定を説明

欧米系のNGOが運営する手工芸品のお店からジュート製のバッグを受注しているほか、子供用の服やズボンを市場からも受注しています。ジュート・バッグの材料はNGOから無償支給ですが、市場用の方は材料も自前で揃えるので、今回借りる450ドルの一部はその材料仕入れにも使われるそうです。

昔「ど根性ガエル」という漫画で、主人公ひろしにはお父さんがいなくて、「ひろしのかあちゃん」がミシンの内職しながら女手一つでひろしを育てていました。私の小さい頃、父が体を壊していたときに母が毎日ミシンで内職をしていたのを時々思い出します。そして私が一番好きな漫画のキャラクターは「ひろしのかあちゃん」です(笑)。ですから私個人的にはこういう方にこそ、まさにライスマのローンを活用していただきたいと思っています。



③イケメン歌手のソカーさん(左)と

おまけ・・・その後、ナイトクラブで歌を歌っているというシンガーのサエム・ソカーさんのところにも寄りました、彼は古くなって故障ばかりしているバイクを買い換えたいと言うことで、2,000,000万リエル=500ドルを今回借りました。出稼ぎでタイに長いこと行っていたこともあり、私も昔東北タイのラオス人難民キャンプに居たことがあるので、タイ語で話して盛り上がったあとでソカーさん、お金の束(10,000リエル札200枚)を数えかけて「やめた、数えなくてもいいや、あんた信じてるから」・・・かくして友達が一人増えました・・・。